

●のべ1856人の参加。3700件の記録 自然しらべ2012 貝がらさがし!

貝がらは、日本の海辺の自然の現状を知る貴重 な手掛かりとなます。全国から届いた記録は 3700 件、重複を除く調査地点は 385 カ所でし た。届いた貝がらの情報をすべて確認したとこ 変化の原因が、生息域の回復なのか、環境 の悪化なのか、地球温暖化なのかを、貝がらが 示してくれました。また観察のコツや探し方な どを伝える「砂はま観察会&貝殻教室」なども 千葉、神奈川、東京、三重で行いました。(写真: 千葉県稲毛海浜公園での砂はま観察会)

2012年度の主な成果

あなたのご寄付やご支援で NACS-J は全国で このような自然保護活動ができました!

●生物多様性国家戦略・地域戦略への提言、シンポジウムを開催 生物多様性の道プロジェクト(重点事業)

生物多様性国家戦略の改訂に合わせ、5 月に国家戦略シンポジウム「海の牛物多 様性フォーラム~日本の海の今を考える ~」を開催し、保護地域の拡大や土地利 用に関しての提言、市民や NGO からの 意見を反映させるための働きかけを行い 生した

また地域戦略づくりと保全活動の普及 のため、NACS-J 会員・自然観察指導員、 市民グループなどに呼びかけ、自治体を 巻き込んだ地域戦略の学習イベント、「人



と自然のふれあい調査」講習会を開催。モデル的活動として、北総地域(関係 7 市町村)で「生態系サービスのマップ」づくりと NGO のネットワーク化に取り組みました。 3月にはシンポジウム「生物多様性を活かした地域づくりの今〜身の回りの自然から地 域の未来に向けて~」を開催し、NACS-J の各事業の現場(赤谷・綾・漆・中池見) な どで進める生物多様性を軸にした地域づくりの最新の取り組みを発表し、生物多様性地 域戦略の策定済みの地域や、策定中の地域からの報告など、地域づくりの最前線情報を 共有しました。(写真:「海の生物多様性フォーラム」)



●被災地の環境を市民調査で調べ、 自然とともにある暮らしの復興を目指す

東日本海岸調査

青森県から千葉県に至る東日本大震災被災地での 海岸植物群落の調査を 141 地点で市民調査によ り行い、震災前のデータとの比較を行いました。 調査の結果、海岸が消失していない限り、海岸に 特有の植物はなくなってしまうことなく生育して いることが分かりました。また、同時に海と人と のかかわりを明らかにする、ふれあい調査、植物 群落 RDB 記載群落の再調査を行い、津波の影響 を評価しました。SISPA を用いて過去のデータや 現地調査データの解析を行い、結果についての報 告会を実施、意見書の提出を行いました。(写真: 千葉県九十九里町での調査員のための地域会合)

●全国から359作品の応募 わたしの自然観察路コンク

富士フイルム・グリーンファンド(受 託者:三井住友信託銀行) との共催 で、「第29回 わたしの自然観察路 コンクール」を実施しました。小・ 中・高校の3部門合わせて全359 作品の応募があり、各部門それぞれ 14作品が入選しました。3月には 多くの人に作品を見てもらい、自然 について考えてもらうため、地球環 境パートナーシッププラザ(東京都 渋谷区)で第28・29回の入選作品 を 1 カ月間展示しました。(写真: 中学生の部・最優秀賞「明石海峡 人の街・鳥の道」)



2012 年度

活動レポート

●50年後の将来像をまとめた 赤谷プロジェクト

「赤谷の森」の50年後の将来像 を、自然環境モニタリングの成果 をもとにまとめました。今年度は それを具体化する森林施業計画を 策定します。多様な主体が参加し 生態系サービスを持続的に活 用する具体例づくりを目指し、関 係者の共同執筆による『赤谷プロ ジェクトの歩み 第1期』、観光 用マップ『旧三国街道・三国峠を 歩こう!』、企業の支援を得た市 民参加型プログラムなどに取り組 みました。(写真:『旧三国街道・ 三国峠を歩こう!』マップ)



●世界遺産登録の自然の質を守る利用を提案 小笠原プロジェクト

世界自然遺産の観光利用モデル構築を念頭におき、小 笠原での利用分散の取り組みを行政に働きかけ、自然 の脆弱度に合わせた観察コースや外来種対策の基本計 画立案につなげることができました。外来種対策には 予防策の根本的な改善が重要なため、今後も具体的な 提案をしていきます。また南島では、10数年のモニ たれている。 5.00mm マン・マン・タリング調査を総括し、今後の利用のあり方を議論する土台づくりをしました。(写真:観察コースが限定 され、植生が回復してきた南島)



●全国で561人が誕生 NACS-J自然観察指導員

自然観察指導員連絡会をは じめ市民団体や企業、自治 体と共催で自然観察指導員 講習会を 12 回開催し、 名の自然観察指導員が新た に誕生しました。また、研 修会「ネイチュア・フィー リング」、「水辺の生き物か ら里山を学ぶ」を開催して 指導員にスキルアップの機 会を提供、春に出会おう「春 分の日 全国一斉自然かん さつ会」で全国の観察会に つながりをもたせ、自然指 導員活動の活性化を図りま した。(写真:第462回自 然観察指導員講習会)





持続可能なエネルギー生産へ 保護地域での地熱開発問題

国立公園での地熱発電開発に対し、不確実性や 景観影響、資源収奪につながりかねない現状、 周辺環境への影響などを指摘し、メディアに取 り上げられました。また、廃湯を利用した小規 模な温泉発電が日本の自然環境に適したシステ ムである可能性を、シンポジウムなどで指摘し ました。また、地域の合意形成を得られる優良 事例構築を行政や立法府、温泉事業者に働きか けました。(写真:視察をした大霧地熱発電所)

●日本の沿岸を取り巻く問題に立ち向かう 沿岸保全管理検討会

検討を続けてきた海洋保護区への提言を『日本 の海洋保護区のあり方〜生物多様性保全をすすめるために〜』と題してまとめ、和文・英文で 公表しました。「海の生物多様性フォーラム~ 日本の海の今を考える~」で発表したほか、海洋基本計画の見直しの際にこれを元に提言しま した。IUCN 世界自然保護会議(WCC /韓国) では、海洋保護区をテーマにナレッジカフェを 開催、提言書を活用しました。(写真:海洋保 護区のあり方発表の記者会見)



●海草藻場やサンゴの消失を指摘、 事業の中止をアピール

沖縄の沿岸生態系の保護活動

辺野古と泡瀬干潟のサンゴ礁埋め立てについ て、市民参加のモニタリング調査と、公表された書類を専門家と分析し、事業者と交渉しまし た。嘉陽海岸の護岸問題では、市民の方々と協 、事業者と意見交換を重ね、計画の改良を 働きかけました。また並行して、工事による影 響の把握と、砂浜の状況や変化を地域住民自ら が知ることができる調査手法の開拓のため、砂 浜市民調査を立ち上げました。(写真:辺野古 でのサンゴ礁調査チーム)



●国有林の保護地域拡大と国立公園の保全管理プランを提案

西表・大雪・日高の保護林拡大と 国立公園の保護問題に発言

80 年代からかかわってきた沖縄・八重山の西表島。森林生態系保護 地域となっていましたが、島の西側一帯や内陸部とは違った生物相を 支えている海辺がその範囲に含まれていませんでした。これらを含め るよう拡大の提案をし続けた結果、九州森林管理局に設定委員会が設置され、約2倍の面積が保護地域となりました。北海道では、大雪と 日高の森林生態系保護地域の指定範囲より標高が低い地域や川沿いの 渓畔林に森林生物遺伝資源保存林を設定するよう働きかけ、実現しま した。シマフクロウや川辺の生物にとって重要な環境が保護林となり ました。また、尾瀬では10年以上取り組み続けてきた至仏山の高山 植生の再生と歩道の一部迂回のプランを提案。事業化に向けようやく 動き出します。(写真:北海道十勝川上流)



●愛知ターゲット達成にむけて

物多様性条約・愛知ターゲット達成への貢献



生物多様性条約 COP11 (インド) や、4 年に 1 度開催される IUCN 世界自然保護会議(韓国) に参加し、展示・ポスター出展やサイドイベン トを開催し、日本の愛知ターゲット達成に向け た取り組みを発信しました。また、NACS-Jが 事務局を務める国際自然保護連合日本委員会の 事物のである。自然自然体度是ロローを真気の 取り組みとして、愛知ターゲット達成に向けた 活動宣言を集める「にじゅうまるプロジェクト」 を展開しています。(写真:COP11 サイドイベ ントで日本の取り組みを説明)

●データ件数は67万件を突破! 全国の調 査サイトから里やまの生物多様性を把握

モニタリングサイト1000里地 調査・里モ

事業開始から 10 年目を迎え、これまでの全国調 査の結果をより分かりやすく一般の方や政策決定 者に伝える『生物多様性指標レポート』の発行を 開始しました。また1月にはこのレポートの内容 や市民調査の意義、全国の調査地での市民団体ら の取り組みを報告するシンポジウムを開催し、全 国から 150 名が参加しました。さらに全国の里 やまでの市民調査の取り組みや保全施策に関する 情報を発信していくためのウェブサイト「里モニ」 をリニューアルオープンしました。(写真:生物 多様性指標レポート 2012)

●ユネスコエコパーク登録で生物多様性保 全型の地域づくりを加速

綾の照葉樹林プロジェクト

2012年7月のユネスコ国際調整理事会で「綾の 照葉樹林プロジェクト」のエリアを含む宮崎県綾 地域が生物圏保存地域に指定されました。日本で はユネスコエコパークと呼ばれ、32年前に登録 された屋久島、大台ヶ原・大峰山、志賀高原、白 しに続くらカ所目です。厳正に保護する核心地域、それを囲む緩衝地域、人の居住地を含めた移行地域という3つのゾーニングをもつユネスコエ コパークとしては日本で初めてとなります。地域 では、エコツアーや環境教育、有機農産物や照葉 樹林ブランドなど、森と里の生物多様性を活かし た地域づくりが加速しています。 (写真:地元の 綾中学校の間伐作業後の森の散策)



発信力の高さが認められた

会報『自然保護』・ウェブサイト

会報『自然保護』は創刊から532号を数え、 2012年度からオールカラー化し、NACS-Jオフィ シャルウェブサイト、Facebook、Twitter など のソーシャルメディアと連動し、生物多様性情

報の総合的な情報 力を高めました。 ウェブサイトでは、 内容の濃さと発信 力の高さが評価さ れ NTT レゾナント の「環境 goo 大 賞」の生物多様性 賞・審査員特別賞 を受賞。国連生物 多様性の10年日 本委員会 (UNDB-J) のサイトリニュ-アルの設計にも参 画しました。(写真: 受賞した NA CS-J ウェブサイ







NACS - J決算レポート

(2012年4月1日~2013年3月31日)

昨年度もNACS-Jの活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。以下に概要をご報告いたします。

■ 収益(収入)

2012 年度の決算は、前年度に比べ全体で 1600 万 円の増収となりましたが、費用がそれを上回ったため、 積立金の取り崩しにより正味財産が減少しました。

基本財産等の運用益は、収益の 0.6%にすぎませ んが、定期預金や国債などのリスクの少ない商品で、 できる限り運用を図っています。

会費は収益の30%を占めています。独自の活動 を安定的に進め、また公益に資する活動を行うため、 会員を増やすことは非常に重要だと位置づけていま す。しかし、個人会員については高齢化による退会、 また団体・賛助会員については経済情勢の悪化や、 地方自治体における負担金見直しの動きにより、減 少傾向が続いています。

寄付金については、東日本大震災への支援が一段 落し、自然保護問題への支援が戻りつつあるよう です。2013年度は会員や寄付者の拡大に一層努め、 安定した経営を目指します。

■ 費用(支出)

NACS-Jでは、収益をできる限り自然保護のため 有効に使うことを目指しています。活動内容を分か りやすくするため、公表している決算資料を、事業 目的ごとの額で表しました。

2012 年度は、費用の 94%を事業費として、6% を法人運営のための管理費として支出しました。

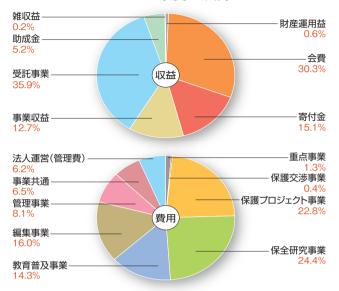
各事業における主な支出は、保護プロジェクト事 業では赤谷プロジェクト、小笠原プロジェクト、辺 野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動。保全研究事業 ではモニタリングサイト 1000 と綾プロジェクト、 東日本海岸調査。教育普及事業では自然観察指導員 養成と自然しらべ。広報編集事業は会報「自然保護」 の制作・発送費と広報活動でした。

受託事業は各事業に含まれています。赤谷プロ ジェクトや小笠原プロジェクト、モニタリングサイ ト 1000 など、NACS-J が主体的に取り組む事業を受 託するようにしています。

管理事業は沼田賞開催や基盤整備、事業共通は事 業全体にかかる費用を計上しています。

2012 年度決算・事業報告、2013 年度予算・事業 計画の詳細資料は、NACS-Jのウェブサイトに掲載 されています。どうぞご覧ください。

2012 年度の決算



科目	2011 年度決算	2012 年度決算	2013 年度予算
収益合計	¥234,790,665	¥251,215,978	270,000,000
財産運用益	¥1,385,033	¥1,510,245	4,350,000
会費	¥77,030,010	¥76,109,200	86,080,000
寄付金	¥26,321,260	¥37,888,305	37,450,000
事業収益	¥34,766,098	¥31,897,675	34,770,000
受託事業	¥75,735,661	¥90,306,483	86,310,000
助成金	¥19,160,040	¥12,979,000	21,000,000
雑収益	¥392,563	¥525,070	40,000
費用合計	¥273,587,225	¥266,445,586	¥281,754,000
重点事業	¥4,329,259	¥3,599,711	¥14,700,000
保護交渉事業	¥444,063	¥939,140	¥1,000,000
保護プロジェクト事業	¥56,574,154	¥60,807,103	¥55,830,000
保全研究事業	¥58,453,522	¥64,907,930	¥72,390,000
教育普及事業	¥40,079,847	¥38,085,868	¥44,300,000
広報編集事業	¥55,583,544	¥42,690,441	¥41,531,000
事務局運営事業	¥20,463,105	¥21,689,893	¥20,627,000
事業共通	¥21,693,952	¥17,194,401	¥16,417,000
法人運営(管理費)	¥15,965,779	¥16,531,099	¥14,959,000

※公益法人会計基準に合わせ、正味財産増減計算書による決算としています。

障害のある人の「完全参加と平等」の実現にむけて。



プロステー 社会福祉法人 東京コロニー http://www.tocolo.or.jp

コロニー中野 営業部 T165-0023 東京都中野区江原町 2-6-7 TEL: 03(3953)3536 コロニー東村山 T189-0001 東京都東村山市秋津町 2-22-9 TEL: 042(394)1113

第22回アートビリティ大賞作家 岡村陸矢「葉っぱの上の動物たち」



夕希子・上原 麻絵・上原 勇一郎

年・後木 建一・臼木 勝・宇野木 早苗 上東 まど香・魚沼市立堀之内小学校5

基明・愛媛県自然観察指導員連絡会・エ

博敬・瓜生 勝朗・漆原 友子・榎田

ション・アライアンス・ジャパン・近藤 信江・近藤 美弥子・斎藤 幹夫・サイボ

㈱ コモテック・古本 峯夫・コンサベー 司·小松 孝司·小松 祐二郎·小宮 邦子· 祥弘・小林 喜美男・小林 玉江・小松 憲

純

ご寄付ありがとう ございました。 2012年度寄付サポーター 684人 総額3788万305円

プソン販売㈱・及川 良子・合資会社

㈱アイティシステム・青木 一恵・青木 邦夫・青木 慎悟・青木 登志夫・青戸 省

伊地知 貴美恵・伊東 要・伊藤 喜久代 澄代・有本 靖・安斎 富士子・飯塚 紘一・ クノロジー㈱・アジレント・テクノロジ 沼 眞知子・浅野 政栄・アジレント・テ 秋田 あや子・浅井 渉・浅子 かおい・浅 夫・岩井 満知子・岩田 幸雄・岩永 省吾 伊藤 喜世子・伊藤 国重・伊藤 総平・伊 芳夫・石橋 良示・磯邊 知子・磯村 泰正 飯塚 友康・五十嵐 敏文・池田 久浩・池 結乃里・新井 光彦・荒木 恭仁子・有川 二・青山 巖・赤沢 美恵子・赤羽 ユリ | 陽子・伊藤 裕志・伊藤 真樹子・伊東 栄・伊佐野 哲平・石井 由和・石月 ㈱社員有志・㈱ アップルファーム・ アベイルテック・天草レストハウス 勝行・稲生 和久・今津 久美 弘之・後藤 賢一郎・後藤 みや子・小浪 子・国画会・護国寺・児島 英人・小島 KCD・小泉 忠男・光田 道雄・河野

グループ21・黒住 耐二・桑原 秀夫・㈱ 熊代 昌三・組頭 五十夫・グリーンダイ 恵子・久保田 道子・熊谷 ミエ子・熊切 保・ 楠見 潔・工藤 勝政・国森 美香・久保田 久子・木原 忠男・清田 秀雄・草野 恭子 ない沖縄をめざす宗教者の集い・吉川 聖子・菊田 穣・菊池 等・菊地 眞幸・岸 究機構・寛田 政江・喜入 ヒロミ・木内 川原 和代・河村 淳子・環境アリーナ研 島 勉・川嶋 正勝・河添 寿子・河野 仁・ 河合 美砂・川勝 史朗・川久保 賢一・川 良子・苅谷 雅充・河合 明宣・川合 哲郎 谷 省司・嘉村 正徳・唐鎌 日出夫・唐沢 子・加納 弘子・上井 薫・上薗 光子・神 アモンド・栗林 淳子・栗山 忠俊・栗山 大作・木地本 重徳・北原 千春・基地の 恵・金山 陽子・鐘ケ江 隆義・金久 由美 敬三・金井 しのぶ・金井 信之・金津 治 加藤 喜代・加藤 晃樹・加藤 俊哉・香取 幸枝・勝木 康隆・勝山 靖子・賀登 環・ 畑 徳彦・小見寺 公一・折口 晴夫・葛西 治作・奥 浩希・奥出雲病院・奥山 基樹 岡野 弘明・岡本 初生・小川 言恵・小川 夫・岡井 健・小笠原 昭夫・岡田 博子・ 博明・大橋 信彦・大牟田 一美・大森 哲 大木 恵巳子·大久保 多加男·大坂 知子 小山内 司・小野 知洋・小野沢 理江・小 大澤 秀行・太田 慶子・太田 毅・大槻 議会・大内 紘三・大内 政義・大賀 由美 森・大泉 麻耶・大分県自然観察連絡協

英宏・田中 玉枝・田中 俊之・田中 秀典 由香里・田代 英治・忠地 千代美・立岡 瀧島 真理子・田久保 晴孝・竹内 友和 田上 真一朗・滝石 有紀・滝沢 由美子 高橋ふとん店・髙畑 知子・高増 泰子 江・高野 裕之・髙橋 英・高橋 洋一・㈱ 靖司・高田 容子・高梨 陽子・髙野 田植 豊実・高木 伸季・高桑 正敏・高田 委員会·㈱千趣会·仙波 一平·曽我 基行 保雄・清田 保之・Saintarrow・関口 滋子 鈴木 淳子・鈴木 龍弘・鈴木 正規・鈴木 クロール・鈴木 郁子・鈴木 聡・鈴木 聡 杉森 広海・杉山 一雄・杉山 弘信・㈱ス 幸子・杉江 千月・杉田 隆三・杉本 玄海 菅谷 勝芳・菅原 憲・菅原 るり子・杉浦 末吉 典子・須賀 等・菅井 良幸・スカイ 新宅 英夫・真如苑・一如社・末吉 武男 和広・ジャスト・ギビング・ジャパン・ 清水 雅典・志村 永久・志村 弘子・下田 裕史・清水 精子・清水 隆尚・清水 紀彦 柴山 裕子・島崎 洋・島津 幸枝・島田 資生堂 花椿基金・資生堂健康保険組合 子・塩原 ゆかり・鹿間 信弘・㈱ 資生堂 だネイチャークラブ・塩澤 馨・塩田 正 クリーン・猿田 孝一・澤田 龍子・さん 佐藤 真弓・佐藤 満・佐藤 雄二・㈱サニ 博・佐藤 聰子・佐藤 文夫・佐藤 正美 佐藤 充郷・佐藤 知子・佐藤 宏樹・佐藤 花子・佐藤 超・佐藤 武雄・佐藤 武之 佐々木 洋・佐々木 史江・笹子 重治・美 佐久間 志穂・佐久間 憲生・桜井 香緒里 ウズ㈱・西連寺 節子・酒井 道子・堺沢 ホースジャパン㈱・菅沼 裕・菅村 真実 清光・榊 久美子・相楽 悦男・佐久間 勇 正樹・佐々 勝巳・佐藤 友于・佐藤 博之・昭和シェル石油㈱・神 正子 功・竹村 真美・田島 清利・田島 由紀子・竹田 喜美子・武田 康子・世田谷区立笹原小学校代表 ふみ 拓洋・平田 克紀・平野 公子・フィオー ディア・芳賀 真理子・㈱博報堂DYイ 誠司・富士ゼロックス㈱・富士ゼロック 川 昌彦・平井 敬治・平尾 秀夫・平川 原 香澄・原 慶太郎・原島 和子・原田 田 伸剛・浜屋 さとり・林 賢三・林 信夫 畑中 貞博・花岡 美佐緒・浜田 君子・浜 本 章子・橋本 清・橋本 八千代・橋本 ンターソリューションズ・橋 幸子・橋 脇 留治・㈱ネオナチュラル・㈱ノスメ 西尾 けい子・西村 照雄・西山 千晶・西 成田 章・成久 武・㈱ニコン・西 浩孝 生一同・並木 孝之・奈良 譲・楢原 蓁 現代教養学科阿部ゼミ2011年度卒業 科2年 阿部ゼミー同・名古屋短期大学 中山 賀央・名古屋短期大学 現代教養学 文彦・中村 良二・中山 章子・中山 広之 中村 恵美子・中村 栄・中村 征子・中村 田 祭・中野 葉子・長濱 清・中部 喜和 屋 俊幸・㈱デマンド倶楽部・土井 敏彦 ㈱辻商店・辻村 慶一郎・土田 福嶋 真人・福田 雅治・福原 卓也・藤岡 レ自然観察会・㈱フォース・福井 しづ 土方 智恵・菱川 慧昭・日比野 祐久・冷 英代・㈱ピート・樋口 直人・久光 幸子 原田 隆・原田 真由美・原田 良玄・坂東 吉子・長谷川 松治・長谷川 博・畑 繁雄・長岡 進・中島 誠・中嶋 雄二・長 内藤 好子・中井 節子・長池 卓男・長岡 鳥居 哲也·都立園芸高等学校生徒会 援学校・戸嶋 章雄・富田 文章・戸村 土肥 松男・時田 真市・徳島県立国府支 塚原 睦子・月川 彩子・辻 邦子・辻 博之 薬労働組合ぼけっと基金・塚田 蒼生子 チャリティ・プラットフォーム・中外製 ㈱為助・千葉県自然観察指導員協議会・ 良昭・谷村 直明・田村 耕作・田村 洋一・ 田中 裕之・谷合 繁造・谷口 雅保・谷間

隆恒・十 勲 修 伸 吉田 義一・よしだコマース㈱・吉永 明 成年・横川 信由・横田 等・横山 隆一・ 比 山本 勝久・山本 曻・山本 美保・山本 賢治・山田 弘・山ノ下 眞子・山本 英司 安田 雄一・安野 眞二・矢次 智浩・谷中 岡 直美・㈱モンベル・㈱ヤギ・八代 英二・ 綾子・森 加恵・森 尚久・森谷 栄介・諸 目羅 敬一・望月 政雄・茂又 述史・森 洋子・村杉 幸子・村山 史世・村山 昌子・ 継雄・宮崎 安代・宮田 達郎・宮田 典正・ 子・宮岡 勉・宮木 昭二・宮崎 伸・宮崎 三越伊勢丹グループ労働組合・南 自然かんさつ会・三井 映代・三石 政俊・ 千可・溝口 美輪・三谷 親子・みちのく 浦 代・間宮 八枝・丸山 定之・三浦 敦・三 松屋・松屋 久也・松山 洋子・的場 みち 松橋 純一・松村 真弓・松本 美千代・㈱ 増田 勉・松浦 佐知子・松坂 孝太郎・松 牧野 立子・正岡 亨・増井 克司・増尾 孝・ 照夫・前田 和治・前田 正伸・前田 翠・ 達也・辺見 茂子・星 徳夫・星野 由美子・ ウィズ・古澤 賢彦・古田 桂子・古間木 ライトソフトウェア・フラワーフリーク 藤田 元義・藤本 和子・船戸 三枝子・ブ 吉居 清・吉澤 宏幸・吉田 正人・吉田 美穂・柳澤 愛子・ヤフー㈱・矢部 セツ・ 宮脇 正・宗形 啓子・村上 恵司・村上 宮原 さゆり・宮原 節子・宮良 真理子・ 大·松田 和子·松田 孝子·松田 康彦· 一郎・山本 由香里・湯浅 末永光・由 知穂・三上 眞喜子・三木 亮・水口 進・湯川 百合子・湯田 隆・山形 幸子・山崎 邦子・山崎 幸勇・堀 三智子・堀川 博誠・本多 富岳・横垣 志津

ス端数倶楽部・藤田 重輝・藤田

正文

夫・渡辺 たまき・渡辺 千春・渡部 晴美・渡辺 和子・渡辺 しのぶ・渡辺 弘・米村 邦稔・㈱読売エージェンシー・

和歌 和男・脇田 信雄・脇本 秀行・和田 ㈱リプロモ・六重部 篤志・㈱口ペライオ・

2013年度の事業計画

2013年3月22日理事会議決

【中期事業目標・2020年目標】

NACS-J では、第 10 回生物多様性条約締約国会議 (COP10) と国連生物多様性の 10 年を踏まえ、2010 年から「生物多様性の道プロジェクト」を重点事業 として進めています。地域レベルでの生物多様性保 全を躍進させるため、3つの視点を2020年までの 10年間の目標として活動しています。

- 人づくり:生物多様性の視点から産業づくりや社 会づくりを行う方策を理解し、人に伝え行動し、周 囲を巻き込む人材を個々の現場で育てます。 同時に そうした人材が活躍できるポストを特に行政内につ くるよう働きかけ、生物多様性を活かした地域づく りの専従者を増やします。
- 社会づくり: 恩恵を受けている生態系サービスに 対して、持続可能な暮らしに対して、あるいは、そ れらを守る取り組みに対して、対価が支払われるし くみをつくり、かつ支払う人を増やします。
- ・産業づくり:生物多様性を保全し、そこからもた らされる生態系サービスを持続可能に利用する産業 (エコツーリズムや、生物多様性認証農業、エネルギー など)が、持続的な価値・利益を持つことを証明で きる事例をつくります。

【2013年度の重点事業】

●生物多様性の道プロジェクト 2013

2013年度は、2011年度に作成した地域戦略ガイ ドブックを改訂し、各地域での一般向け、自治体職 員向けの講演・セミナーの開催に力を入れます。千 葉県・下総(流山・印西)、宮崎県・綾町、群馬県・ みなかみ町、福井県・中池見などの NACS-J のフィー ルドを中心に、地域戦略策定、保全計画づくりへの 誘導のため、協議会・推進会議を活性化する活動を 行い、地域の主体的保全活動を育成します。また企 業や NGO、行政、公的機関など多様な分野のセクター が連携して生物多様性の主流化を推進する、国連生 物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J) の支援事業 も実施します。

●保護問題への対応強化

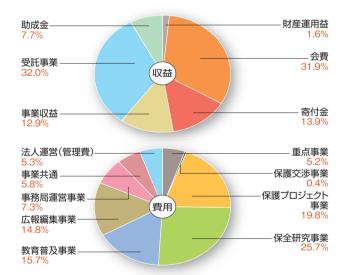
現政権の提唱するコンクリートに頼る「国土強靭 化計画」は、自然を大切にし、自然の力に従おうと する自然保護の思想、生物多様性保全の思考とは相 容れないものです。復興復旧事業、新規や突発的な 開発問題の増加を見越し、全国の会員とともに保護 問題に取り組む体制を強化します。



2013 年度の主な事業

この「〇一及の工の手术		
重点事業	・現場保護問題への体制強化 ・生物多様性の道プロジェクト ・支援者拡大事業	
保護• 研究事業	・東日本海岸調査〜自然を活かした復興 ・沖縄島〜サンゴ礁生態系の保全 ・赤谷プロジェクト、綾プロジェクト、小笠原プロジェ クトなど生物多様性を活かした地域の環境計画モデル づくり ・モニタリングサイト 1000 里地調査、市民調査の普及 ・保護地域研究	
教育普及事業	・自然観察指導員養成(講習会、研修会、指導員の活動 と活性化) ・環境教育(自然しらべ「カメさがし」、観察路コンク ール、自然保護セミナー、企業との連携)	
広報・ 編集事業	・情報発信(記事制作、会報発行、ウェブサイト、 Facebook・twitter 運用、ウェブマガジン構築) ・広報ツールを通じた企業・団体パートナー拡大	
保護交渉事業	・国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み・保護地域の新設・拡大や管理方策の進展・国有林への多様性保全型施策の組み込み	
管理事業	・事務局運営対応 ・収入基盤整備(会費・寄付の拡大) ・ウェブ寄付拡大に伴う会員管理システムの改訂 ・沼田眞賞の運営	

2013 年度の予算



東日本沿岸の自然を守る取り組み(特集参照)

NACS-Jでは、昨年まで津波後の海岸植生の全体的な調査や、人 と自然のふれあい調査を実施してきました。今年度は、調査・人材・ 政策の三分野から取り組みます。

気仙沼市と南三陸町では海辺から上流までの連続性に注目して植 生、水環境、水生昆虫、海草藻場、ふれあい調査を行います。

人材育成では、震災後の自然を活かした自然観察会を開催できる ボランティアとして自然観察指導員講習会を沿岸部で開催します。

政策提言では、自然を活かした防災のあり方や巨大防潮堤計画に ついてシンポジウムなどを通じて地元の皆さんと考え・提言すると ともに、日本全体の沿岸の自然保護を目指して取り組んでいきます。